

農業委員会だより

第 87 号
令和3(2021)年
8月1日発行
〈編集・発行〉
大田原市農業委員会
大田原市本町1-4-1
TEL.0287-23-8716

E-mail/nougyou@city.ohatawara.tochigi.jp



女性のための農機具講習会を開催

農業に携わる女性に、安全に安心して農機具を取り扱ってほしいという思いから、女性委員4人が企画しました。

2ページに詳しく紹介しています。

主な内容

- 女性のための農機具講習会開催……………2
- 営農型太陽光発電視察報告……………2
- 農業委員・推進委員の素顔……………3
- 令和2年度農業委員会許可・承認件数…3
- (連載)農業者紹介……………4

8月～10月に農地パトロール(利用状況調査・利用意向調査)を実施します

農業委員会では、農地利用の確認、遊休農地の実態把握と発生防止及び違反転用発生防止などのため、毎年農地パトロールを実施しています。

調査の際、農業委員会の委員や事務局職員が市内の農地をまわります。不適切な利用状況が確認された場合は、意向調査を実施します。農地の適切な管理をお願いします。



6/5

女性のための農機具講習会開催 ～ 農業女子応援企画～

委員活動報告

農業委員会では5年ぶりに市内圃場で「女性のための農機具講習会」を開催。子育て真っ最中の30代から退職後に就農したという70代にわたる市内の女性19人が参加しました。この講習会には、JAなすのが全面的に協力。実習で使う圃場のほか農業用機械の提供、講師を全面的に引き受けていただきました。



▲女子仕様でサンバイザーがついたトラクター

【農業用機械は3種類】

農機具は、トラクター、草刈り機、管理機の3種類をご準備いただきました。トラクターは大きさやメーカーの異なる3台を準備。白地にピンクのデザインが施されたトラクターは、参加者からかわいくと大好評。また、草刈り機は軽いバッテリータイプと安全な手押し型があり、皆さん、使いやすいことに驚いていました！



▲手押し型草刈り機の指導を受ける参加者

【実習の様子】

実習は3グループに分かれ、一人一人、エンジンのかけ方・止め方・メンテナンス方法について指導員のもと実践しました。最初は、みなさん恐る恐る機械に接していましたが、次々に機械を使いこなしていきました。圃場は終始楽しい雰囲気には包まれていました。

たくさんの方々にご協力いただいた講習会は大成功に終了いたしました。次回を希望する声が続々と寄せられていますので、第2弾も検討しています。

(文：相馬和恵)



▲人気だった農業女子向けの作業服展示販売コーナー

3/16

営農型太陽光発電の視察に行ってきました ～ (株)グリーンシステムコーポレーション in 芳賀町

農業委員会農地班は、多様化する農地利用の在り方・持続可能な農業経営の参考にすることを目的に、芳賀町の(株)グリーンシステムコーポレーションの営農型太陽光発電を視察しました。

同社では、3畝の田畑に2畝分の太陽光パネルを設置し、下部で無農薬の米や麦を生産し、発電と営農を両立していました。



パネル間は隙間を空けて設置することで日照量が確保され、コンバインなどの大型機械による農業が可能となりました。収穫量も平均を上回るようです。

また、非常用電源設備が設置され、停電の際は地域に電

力を供給可能な状態になっています(写真)。

本市でも、このような案件の相談があった場合、対応の指針としていきたいと思えます。

(文：鈴木賢一)



▲高さ4.25m、柱間3mの太陽光パネルを農地に設置

農地利用の最適化推進に取り組む

農業委員・農地利用最適化推進委員の素顔



秋の刈取りが楽しみです

農業委員
秋本 則夫 (蛭畑)

農地は農業生産の基盤であり、地域の貴重な資源であります。
人・農地プランの実質化に協力し、農業・農村の持続的発展に努めていきたいと思っております。



美味しい須賀川茶です

農業委員
屋代 幸子 (須賀川)

農業委員として2年目になりました。
地域では担い手の減少、高齢化、耕作放棄地など問題は山積みです。地域との連携をとり、また、女性の視点からの活動等にも取り組んでいきます。

推進委員長として2期5年目となります。
昨年は、人・農地プランの話し合いにご協力いただきありがとうございました。今後、作成されたプランをもとに、実質化に取り組んでまいります。引き続きご協力をお願いいたします。

推進委員
渡邊 政義 (黒羽向町)



幸水の摘果作業。お盆前に出荷が始まる

推進委員
阿久津 功 (中田原)

ウドを作り始め31年、諸先輩をはじめ部会の皆様、農協の指導を受け栽培を続けてきました。
推進委員として1年間、耕作放棄地を出さない、高齢化による農業継続の危機、後継者不足問題を含め、少しでも地域の皆様のお役に立てるよう努力します。



ウドの生産量日本一の産地

令和2年度 農業委員会の許可及び承認件数

①農地法第3条に基づく許可件数 (単位:件、a)

区分	売買	交換	賃貸借	使用貸借	贈与	競売その他	計
件数	50	9	8	14	23	6	110
面積	7,846	236	582	3,166	1,932	176	13,938

②農地法第4条に基づく許可件数 (単位:件、a)

区分	農家住宅	一般住宅	集団住宅	商業	農業用施設	資材置場	植林	その他	計
件数	0	2	3	0	3	0	1	7	16
面積	0	9	27	0	116	0	22	24	198

③農地法第5条に基づく許可件数 (単位:件、a)

区分	農家住宅	一般住宅	集団住宅	宅地分譲	商業	農業用施設	資材置場	その他	計
件数	0	45	0	14	3	1	1	18	82
面積	0	177	0	315	85	3	1	488	1,069

④非農地証明願……50件(合計面積 684a)

3/11 女性の農業委員会活動推進シンポジウムに参加して

オンラインにより開催された栃木県農業会議主催のシンポジウムに参加し、「人・農地プランの実質化を確実に進めるために」と題した講演を聴きました。

人・農地プランの策定は「目的」ではなく「手段」です。地域の農業(農地)を守っていくために、策定したプランをいかに実行し具体化していくかが求められています。今後、地域の方々を中心に、人・農地プラン推進委員会等を設置し、進捗状況を確認しながら、プランの実質化を進めていくことが重要になると主張されていました。

何事も行動を起こさなければ何も変わりません。農地を守り、後世に引き継ぐためにも、「覚悟」・「スピード感」をもって、一緒に取り組んでいきましょう。



(文:相馬和恵)

連載

よろしくお願ひします

第4回 溜口功啓さん(蛭畑)

今回は湯津上地区蛭畑にお住まいの「溜口 功啓(ためぐちあつひろ)さん(28歳)をご紹介します。

溜口さんは、ベビリーフ、イタリアン野菜、マコモタケのほか新しい品種の野菜や珍しいハーブを栽培しています。

通信制大学に通いながら父のアスパラガス栽培を手伝っていました。昨年からは畑30アを借り、独立して経営を始めました。

大学では心理学と哲学を学び、「日本人の心は自然とのつながりがとても大切だ」と知り、自然と関わり、自己成長をするために農業を継ぐことを決めたそうです。

主力のベビリーフは「湯津上村民食堂」をはじめ市内のレストラン、那須の結婚式場などへ出荷しています。「自分の作った野菜が、素晴らしい料理に調理され、美味しく食べてくれる人を見るとやりがいを感じます。」と笑顔を浮かべる溜口さん。

化学肥料を使わない、大豆由来の「ヒューマス」を使った肥料づくりにこだわりを持っています。ヒューマスを堆肥に入れると、土壌のアミノ酸や菌類が増え、野菜の成長に違いが出てくるそうです。

今後の目標は、自身のホームページやインスタグラムを活用し、ネット通販もやっていきたいとのこと。チャレンジ精神あふれる溜口さんの今後の楽しみです。

(聞き手：秋本則夫)



◀自慢の花ズッキーニを手に笑顔の溜口さん

花の中にチーズを包み、フリットにすると絶品です!

これから就農する方へのメッセージ

農業は簡単にお金を稼ぐことのできる職業ではありませんが、それ以上に得られる喜びは沢山あります。個性を出して、地元を盛り上げていきましょう。

読み応え
あります

全国農業新聞

- 農業経営に役立つ情報満載
- 暮らしに役立つ話題満載
- 「週刊」の特性を生かした解説記事
- 月1回は充実した栃木県版記事
- 毎週金曜日に届きます

気になる方は
無料の見本誌を
申込み

購読料は
月額700円(税込み)

購読のお申し込みは、農業委員会事務局(23-8716)まで

豊かな老後生活のために 加入しませんか?

農業者年金

国民年金に
上乘せする
公的な
年金制度
です

- 農業者の方なら広く加入できます
- 積立方式・確定拠出型で安定した年金財政
- 保険料は2万円から自由に選択可能
- 保険料の国庫補助 ※要件があります
- 税制面で大きな優遇措置
- 80歳までの保証がついた終身年金

詳しくは農業委員会事務局または最寄りのJA窓口まで

編集後記

新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいます。日常生活は、従来とは大きく変化しました。外食が減り、米の消費量は大幅に減少。米の作付面積・収穫量、県内1位の大田原の農家の一員として、このままの状況には大きな危機感を持っています。コロナ収束と農家を守る取り組みが求められます。

今回から農業委員会だよりは、4ページで見やすい紙面づくりに取り組んでいます。

編集委員長 助川悦夫

【農業委員会だより編集委員会】(農政班) 助川悦夫・阿見芳・笹沼保治・屋代幸子・秋本則夫・相馬和恵・高瀬隆至・越沼良